



イザヤ四十一章5、6節
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。

天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者は
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。

遺伝子からわかる真相

人間と動物は同時期に出現した。



ジェネシスジャパン会長
宇佐神 実

AACC Japan/ 海外講師に感謝状を渡した宇佐神実会長

記念撮影

AACC JAPAN 報告

多くの祈りと奉仕に支えられ AACC 日本大会は、
創造主の祝福のうちに終了しました。(4 ページに続く)



ミトコンドリア DNA の証言

ジェネシスジャパン会員の K さんから「全面的な遺伝子調査は進化論の新しい局面を示す (Sweeping gene survey reveals new facets of evolution)」¹ という記事があるが、これをどう捉えたらよいかとの問い合わせをいただきました。

これは米国ロックフェラー大学のマーク・ストックル博士が 10

万種の動物の COI 遺伝子 (ミトコンドリア DNA に含まれる 37 の遺伝子の 1 つ) を比較した結果を発表したものです。

生物学では、特定の種類の動物が絶滅せずに長く存続すればするほど突然変異が蓄積され、同じ種類の動物に現れる遺伝子の差異が増大していくと考えます。ですから、もし進化論が正しく、地球上に古い動物種と新しい動物種が存

在しているなら、それらを比較すると古い動物種内の遺伝子の差はかなり大きくなるはずですが、彼の研究は、10 万種の個々の種内の遺伝子の差を調べることで、それぞれの生物が、いつ頃出現したかを発見できるはずでした。

彼は、AFP 通信に「この結論には非常に驚かされ、できる限りこれに抗おうとした。」² と述べています。その結論とは地球上の動物

種の9割が10~20万年前にほぼ同時に出現していたというものです。

彼がなぜこの結論に抗おうとしたかは言うまでもないことです。これは彼が信じていた進化論の考え方を一蹴するものだったからです。彼は「地球上の76億人も、5億羽の家雀も、10万匹のインシギも遺伝的差違は『ほぼ同じ』だった。」³とAFP通信に語りました。

遺伝的属性がほぼ同じということは、ほぼ同時期にすべての生物が出現したということです。彼はその「時期」を10万~20万年前と推測したのです。

そこでマーク・ストックル博士は新しい進化論の説を提唱しました。それは、「動物の種は、次の生物に進化するか絶滅するまでのある短い一定期間しか生存できない。したがって、進化論では常に、

ある時点で生きているすべての動物は比較的新しく出現した動物だということである」⁴というものです。もちろん、これは進化論に併せて事象を読み解いている、仮説のひとつにすぎません。

彼にとって予想外の結果はそれだけではありませんでした。それは、「種間には明確な遺伝的差異があって、その中間はまず存在しない」⁵というものです。「中間種が存在しないという事実は、やはりダーウィンを困惑させただろう」⁶と彼は述べました。

今回の研究の結果を進化論で説明しようとするために、彼は非常に苦慮し、苦肉の策で前述のような新しい進化説を提唱したのでしよう。

しかし聖書に基づいて考えるな

ら、今回のような研究結果がでるのは当然のことです。

ノアの大洪水が起こったなら何が期待されるでしょうか。今から約4,500年前にすべての地上の動物は1つがいつつ(あるものは7匹ずつ)箱船に乗り、洪水が終わって、地上で繁殖を始めました。

すなわち、1つがいつつから同時期に繁殖をはじめたわけですから、当然個々の動物に見られる突然変異によるCOI遺伝子の差違は同程度のはずです。

さらに、創世記1章では、すべての動物も植物も種類に従って造られたことが記されています。すなわち、鼠は鼠、猫は猫、犬は犬、猿は猿という遺伝的境界があって、それ以外の種類にはならないということ、今回の研究結果は明らかにしたのです。

ダーウィンの憶測に反して、鼠が進化して猫や猿になったりはし

ません。その証拠に私たちは日常、鼠と猫、鼠と犬の中間種などが生きているのを見ることもありません。中間種は進化論の推測の中にだけ存在しているのです。

かつて、ハーバード大学の有名な進化論者、故スティーブン・J・グールドはこう述べました。「**主要な生物間に中間型の化石証拠が欠如しているという問題は、進化が徐々に長い時間をかけて起こってきたと説明しようとする時に常にまとわりつく問題である。**」⁷彼は中間型化石が存在しないことを認め、ダーウィンが提唱した進化が徐々に長い時間をかけて起こるという考えを否定し、生物の進化はある地域で急激に起こるために中間型の化石は残らないという「断続平衡説」を提唱しました。

新事実がわかる度に次々と新説

を発表しなければならない進化論と違い、聖書の説明は真実が書かれているので変わることがありません。そのため科学に事実誤認があるとまるで聖書が間違っているとしばしば誤解されます。しかし科学の進歩により新事実がわかり、科学者たちの誤った認識が訂正されると聖書の内容と一致することが度々確認されています。

聖書は、被造物によって創造主の存在とそのご性質と永遠の力が明らかに分かると述べています(ローマ1:20)。

そして今回のミトコンドリアDNAの遺伝子調査も、やはり被造物が聖書の記述を裏付けることを明らかにしました。すなわち、聖書にあるように、すべての動物は、種類に従って造られ、それは長い年月をかけてではなく、天地創造の文字通りの六日間で造られたということ、そしてノアの箱船

から同時に出てきた動物たちが現在世界中に生息しているということです。

引用文献

- Hood, M. "Sweeping gene survey reveals new facets of evolution" [PHYS.ORG](https://phys.org/news/2018-05-gene-survey-reveals-facets-evolution.html), 2018年5月28日
3. 4. 5. 6. 同上
- Gould, S. "Is a New and General Theory of Evolution Emerging? (進化論の新しい標準説の出現)" *Paleobiology* vol.6, No.1, 1980, p.127

参考文献

- Ham, K. 「研究：90%の種が比較的新しい起源を持つ (Study: 90% of Species Have a Recent Origin)」2018年6月7日 <https://answersingenesis.org/natural-selection/speciation/study-90-percent-of-species-have-recent-origin/>
- Tomkins, J. 「遺伝子時計の実験は聖書の時間枠を示す (Empirical genetic clocks give biblical timelines)」*ジャーナル・オブ・クリエーション誌* 29(2) pp.3-5, 2015年 https://creation.com/images/pdfs/tj/j29_2/j29_2_3-5.pdf

AACJapan (AiG/KACR/GJ/AiGの講演者)



祝福をする AAC 沖縄実行委員長/斎藤清次師



チーム台湾/賛美



ジョン・アイズモー師



講師記念撮影



白い家フェロシップチャーチ/賛美



チームネパール/ネパールの賛美





第三回全アジア創造カンファレンスが2018年5月31日から6月2日にかけて沖縄県的那覇バプテスト教会（一般）と沖縄世界宣教教会（ユース・子供）を会場に開催されました。

アジア圏を中心とする14カ国の講師と17カ国からの参加者で一般参加者約500名、ユース・子供参加者約400名といっばいになり、多くの方々から「参加して本当によかった」との声をいただきました。

2017年5月に那覇バプテスト教会名誉牧師の国吉守先生に相談させていただいたことがこの実現につながりました。国吉先生は「これは大切な働きだから沖縄の牧師先生たちに相談してみましよう」

と力強く言ってくださったことを思い出します。その後、沖縄の牧師先生方が集まってくださり、沖縄AACC実行委員会を立ち上げ、定期的に会って準備を進めてくださいました。途中で国吉先生の体調のことがあって那覇ナザレン教会の斎藤清次先生が実行委員長を引き継いでくださいました。実行委員の先生方と協力してくださった方々に心から感謝いたします。

また、2017年春に開催した創造を伝える働き人養成講座に参加してくださったYさんは、当時ノンクリスチャンでしたが、講座をきっかけに教会に通い始めました。そして今回のAACCにも参加し、バプテスマを受ける決心をされたそうです。

このことから、日本において創造を伝えることの大切さを思われます。これからはジェネシスジャパンの働きを覚えてお祈りいただき、共に働きを進めていただければ幸いです。

講座・イベント案内

■創造を伝える働き人養成講座

宮城・仙台 2018/8/27(月)～29(水)
 千葉・勝浦 2018/9/17(月)～19(水)

■ジェネシスジャパン 秋の創造セミナー

2018/10/25(木)～27(土)
 @白馬グリーンプラザホテル

詳細のお問い合わせ・お申し込み・
 セミナーや講演のご依頼は、
 ジェネシスジャパンまで

<https://aacc2018.wixsite.com/index>

創造を伝える働き人養成講座



【募集要項】

- ・聖書の言葉が創造主の言葉だと信じる人。
- ・御子イエス・キリストを救い主と信じている人。
- ・創造を信じることの大切さを学び、伝えたいと願っている人。

講座の目的と概要

- * 創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる
- * 創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ
- * 創造を伝えるのに使える資料の提供
- * 修了証授与（全日程参加者）
- * 創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるように協力
- * 創造論伝道で励まし合える仲間を育む

2泊3日5食・定員12名・参加費3万円

お申込／詳細のお問合せは

ジェネシスジャパンまで

tel 029-292-9621

fax 03-6862-8340

e-mail info@genesisjapan.com